日刊工業新聞　2月5日(木)　【8面】

TYPE OF INDUSTRY

自動車・モビリティー

中小に「からくり技術」

日産、地域経済を活性化

日産自動車は生産現場で生まれた「からくり技術」を中小企業にライセンス供与する活動に力を入れている。日産の技術を生かして、中小企業が現場の効率化や作業者の負担軽減につながる自社製品を開発し、収益拡大につなげる。2025年度は3社・4件の契約を結んだ。ライセンス供与を通じ、地域経済の発展に貢献していく。

（編集委員・村上毅）

今年度3社・4件契約　「脱下請け」後押し

日産が手がける事業では中小企業が「ライセンシー（被許諾者）」となり、契約した技術を使って製品を開発・製造して最終ユーザーに販売する。日産は「ライセンサー（実施許諾者）」として売り上げの一部を対価としてロイヤルティーを得る仕組みだ。

日産にとっては少ないリスクで一定の利益を確保でき、地域経済の活性化に寄与できる。中小企業は自動車生産で実績のある技術を使用できるため「技術開発の費用・期間を短縮しつつ、商品群を拡大できる」（日産知的財産部IPイノベーション・パートナーシップグループ）。自社製品のない中小企業が事業を通じて自社製品を展開することで、「脱下請け」のきっかけにもなり得る。

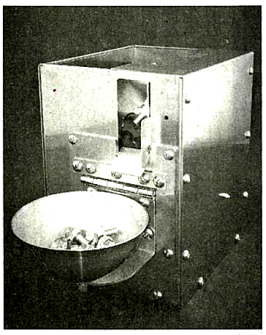
25年度は、もりや産業（大阪市城東区）、東伸工業（静岡県富士宮市）、三田工機（川崎市高津区）の3社と契約を結んだ。台車の荷物の載せ降ろし作業を軽減する技術や、テコの原理で重量物の載せ替えを重筋作業なしでできる技術、プレス品や交差穴加工のバリを除去する技術などで、それぞれ日産の追浜工場（神奈川県横須賀市）や横浜工場（横浜市神奈川区）、栃木工場（栃木県上三川町）で生み出された技術だ。

日産は同事業を12年度に開始。これまで18社・15技術の契約を結び、成果につながっている。13年に契約したマイス（川崎市高津区）は、ライセンス技術を基に独自の改良を加え、ボルト・ナットの定数供給装置を製品化した。

作業者への部品の定量供給を自動化し、作業効率と品質の向上を実現。マイスの鈴木啓之取締役は「（ライセンス契約で）最短距離でモノづくりができる。後発だったが現場の声を反映し、既存製品の不具合や改善要望を盛り込むことで競争力のある製品にすることができた」と強調する。

「パーツカウンター」の名称で15年に発売し、高精度や小型・軽量、低コストなどを強みに累計2000台超を販売。日産の国内外の工場や同業他社の工場で広く採用されている。

日産では社内で開く「からくり改善展」などで現場の改善技術の発掘を推進。自治体や発明協会、地域金融機関などと連携して適切な企業を選定し、年数件の契約締結を目指している。社内の困りごとを解決していた技術を広く発信し、「社会の困りごと」の解決につなげていく。



上もりや産業には台車を使う作業者の負担を軽減する技術を供与。荷台部分にスライド機構を持たせることで台車自体を車にスムーズに搭載できる
下マイスの「パーツカウンター」は高精度や小型・軽量、低コストなどを強みに累計2000台超を販売

NEWS 拡大鏡